

学生の障害児者に対する受容的態度に関する研究 (第1報)

豊村和真

目次

【問題意識と目的】

【方法】

【結果と考察】

- 1 素点の全体的傾向
 - 1) 受容的態度項目について
 - 2) 接近許容度項目について
 - 3) 知識項目(知識1)について
 - 4) 交流経験項目について
 - 5) 知識項目について
- 2 結果の学校別、性別傾向について
- 3 受容的態度の因子的妥当性について

【問題意識と目的】

障害者の円滑な社会参加を推進するためには、関係者の努力だけでは限界があり、地域住民の理解を得る努力も重要である。障害者に対する地域住民の人々の態度を無視することはできない。本報告では以後の一連の研究の出発点として、彼らの中で将来専門家として、障害者に直接接することになる介護福祉専門学校学生およびその可能性の高い福祉系学科に属する学生とその他の学科に属する学生の態度を調査する。

障害の分類に関する意味づけについて色々な議論がありえるが、健常者にとっては、現状ではそれが将来の専門家といえど、障害の

差異による態度の差が生じることが考えられるため、障害別に調査を行なった。これについては障害者基本法に従い区分することがもつとも自然と考え、身体障害、知的障害、精神障害の3区分とした。

相当量の調査のため今回はまず、全体的な傾向についての基礎的な集計結果を示す。さらに障害者に対する受容的態度について、学生を介護系の専門学校生、福祉系学部 of 学生、非福祉系学部の学生間での差異および性差について報告する。性差については、生川(1995)がレビューしているように、必ずしも安定した結果がえられないようであるので、今回は特に検討する。さらにこれらの結果が生川(1995)の結果と因子的に同じ構造を持つかどうか検討する。

【方法】

調査対象者は介護福祉系専門学校生(以下「介護専学」)130名、大学生(英文学科、経済学科等非福祉系の学科(以下「非福祉大」)241名、福祉系学科(以下「福祉系大」)108名)、合計349名である。

配布は大学および専門学校の講義の時間に行い、その場で回収した。その場での回収が困難な学生には自宅に持ち帰って回答した後、設置してあった質問紙回収箱に入れさせた。

調査用紙は、精神障害者、知的障害者、身体障害それぞれに対する関心、地域交流、働

キーワード：障害、受容、性差、態度

きかけ、職場進出、能力、その他に関するものから構成される16の受容的態度項目、出現率や犯罪率など知識に関する4項目、会話経験や仕事(遊び)経験、ボランティア経験に関する5項目、性別や在籍学科、学年など被験者のプロフィールを記入する3項目から構成されている。詳細は以下の通りである。

受容的態度項目として、生川(1995)の結果32項目の中から本研究の目的にそぐわない総合教育尺度をまず除いた。残った実践的好意、能力肯定、地域交流、理念的好意の4つの態度尺度から、各態度尺度の信頼性、内的一貫性などを検討するために算出された態度尺度得点と尺度を構成する下位項目との相関係数が高い上位4項目づつを取り出し、16項目を採用した。

生川(1995)の対象は精神遅滞児(者)であったため、質問内容の「ちえ遅れの人」または「ちえ遅れの子ども」を「精神障害者」、「知的障害者」、「身体障害者」の3パターン作成したため、調査対象者1人に対し16項目×3障害の計48項目となった。これらは5段階評価である(付録1参照)。

知識項目として生川(1995)が設定した知識に関する5項目において、知識の有無と態度尺度得点との間に関係が認められなかったとされる3項目を除いた2項目に2項目を追加した4項目を設定し、態度項目と同様に4項目×3障害の計12項目を作成した。これらは各1点とした。これらの項目を以後知識1とする(具体的項目については付録1を参照)。

交流経験項目として、藤本・小花和(1973)の調査で用いられた精神障害に関する知識項目のうち、質問内容を「知的障害」と「身体障害」のどちらに変更しても使用可能と思われる5項目を設定し、5項目×3障害の計15項目を作成した。これらも各1点とした。

どの程度具体的に障害者との関係が考えられるかを調査するために、障害ごとに程度が

異なると考えられる4項目を作成した。それぞれ隣に引っ越してもかまわない(「許隣人」)、友達になってもかまわない(「許友人」)、恋愛感情が伴う交際をしてもかまわない(「許恋愛」)、結婚してもかまわない(「許結婚」)という項目である(全文は付録1参照)。

障害に関する知識として、難聴、精神分裂病、精神遅滞、花粉症、ちえ遅れ、うつ病、肢体不自由を知的障害、身体障害、精神障害に分類する項目を作成した(以後知識2)。

渡邊・宮本(2000)の項目から福祉施設を児童相談所～軽費老人ホーム19項目から福祉施設を選択する項目を採用した。

さらに同研究から福祉施設の数の多い順に並べる項目を採用したが、今回はこの項目については報告しない。近年順位が逆転したため、扱いが困難であったためである。

そして同研究から施設名に関する印象を選択肢から選ばせた(付録1参照)。これについても今回は報告しない。

なお、分析にはSAS Ver.6.12およびSPSS Ver.11.5を使用した。

【結果と考察】

1 素点の全体的傾向

被験者属性を問題にせず、障害者に対する受容的態度その他について個々の素点を元にした平均値による検討を行った。

1) 受容的態度項目について

障害に関する受容的態度16項目について、各項目に1点～5点を与え、それらの値に基づき個別に分散分析をした(表1 受容的態度部分参照)。

障害別にそれぞれの受容的態度項目の平均値および、SD(標準偏差)を示した。なお、有意差とあるのは、各項目ごとに、一元配置の分散分析を行い、有意差が見られた項目についてはTukeyの多重比較を実施した結果で

表1 障害別受容的態度，接近許容度，知識1，交流経験得点平均点とSD

項 目	知的障害		身体障害		精神障害		有意差
	平均	S D	平均	S D	平均	S D	
受 容 的 態 度	01_住みやすく	4.19 (0.92)	4.55 (0.76)	4.05 (0.98)	精<知<身		
	02_国が援助	4.21 (0.91)	4.43 (0.82)	4.02 (1)	精<知<身		
	03_親だけ限界	4.27 (0.92)	4.22 (0.98)	4.27 (0.99)	n.s.		
	04_社会全体責任	3.72 (1.02)	4.01 (0.96)	3.76 (1.09)	精=知<身		
	05_望_ボラ参加	3.20 (1.24)	3.55 (1.21)	3.15 (1.27)	精=知<身		
	06_望_放送	3.16 (1.18)	3.43 (1.19)	3.32 (1.2)	知<精=身		
	07_望_接触	3.17 (1.2)	3.53 (1.17)	3.13 (1.22)	精=知<身		
	08_望_新聞記事	3.23 (1.11)	3.44 (1.14)	3.39 (1.18)	知<精=身		
	09_普通生活可	3.32 (1.09)	3.84 (1.02)	3.19 (1.12)	精=知<身		
	10_多様作業可	3.56 (1.05)	3.91 (1.02)	3.40 (1.11)	精=知<身		
	11_健常作業可	3.47 (1.14)	3.91 (1.04)	3.39 (1.13)	精=知<身		
	12_指導効果有効	3.78 (0.98)	4.10 (0.92)	3.62 (1.03)	精<知<身		
	13_共同生活要	3.93 (0.94)	4.15 (0.93)	3.68 (1.1)	精<知<身		
	14_社会参加良	3.94 (0.96)	4.27 (0.85)	3.72 (1.11)	精<知<身		
	15_健障共労働良	3.94 (1)	4.22 (0.89)	3.66 (1.13)	精<知<身		
	16_健障交流良	4.10 (0.95)	4.33 (0.88)	3.83 (1.1)	精<知<身		
接 近 許 容 度	許隣人	3.74 (1.22)	4.26 (1.05)	3.08 (1.41)	精<知<身		
	許友人	3.75 (1.17)	4.26 (1)	3.20 (1.34)	精<知<身		
	許恋愛	2.48 (1.24)	3.23 (1.33)	2.33 (1.24)	精=知<身		
	許結婚	2.29 (1.25)	2.94 (1.37)	2.15 (1.23)	精=知<身		
知 識	生可能	0.95 (0.22)	0.91 (0.28)	0.82 (0.38)	精<知=身		
	出現率	0.78 (0.42)	0.80 (0.4)	0.74 (0.44)	n.s.		
	遺伝性	0.89 (0.32)	0.93 (0.26)	0.91 (0.28)	n.s.		
	犯罪性	0.84 (0.37)	0.97 (0.18)	0.54 (0.5)	精<知<身		
交 流 経 験	経験話	0.70 (0.46)	0.70 (0.46)	0.24 (0.43)	精<知=身		
	経験仕事	0.49 (0.5)	0.41 (0.49)	0.14 (0.35)	精<知<身		
	経験食事	0.38 (0.49)	0.35 (0.48)	0.11 (0.32)	精<知=身		
	経験生活	0.12 (0.33)	0.15 (0.36)	0.04 (0.2)	精<知=身		
	経験ボラ	0.23 (0.42)	0.26 (0.44)	0.08 (0.28)	精<知=身		

（「有意差」は，有意水準5%でTukeyの多重比較を行った結果を模式的に表示したもの。精=精神障害，知=知的障害，身=身体障害を示し，不等号は有意差あり，等号は有意差なしを示す）

ある。この時の有意水準は5%に設定した。

知的障害，身体障害，精神障害，をそれぞれ，「知」，「身」，「精」と表し，有意差が見られた水準間是不等号「<」で，有意差が見られない水準間は「=」で表現した。

3つの障害別に有意差が出た項目について下位検定を行い，有意差が見られた項目についてはそれらの大小を不等号記号および等号で示したのが表1である。

有意差が見られなかった項目は，Q3_親だけ限界（障害の人の面倒を見るのは，

親だけでは限界があると思う）のみであり，それ以外の項目は全て有意差が見られた。

Q6とQ8の2項目を除くと，3つの障害関係は，精神障害が最も低いか，知的障害と有意差が見られず，身体障害が最も高いか知的障害と有意差が見られないという結果であった。

すなわち，Q6_望_放送（障害に関するテレビやラジオの放送を見たり聞いたりしたいと思う）とQ8_望_新聞記事（障害に関する新聞記事などを読みたいと思う）を除けば，

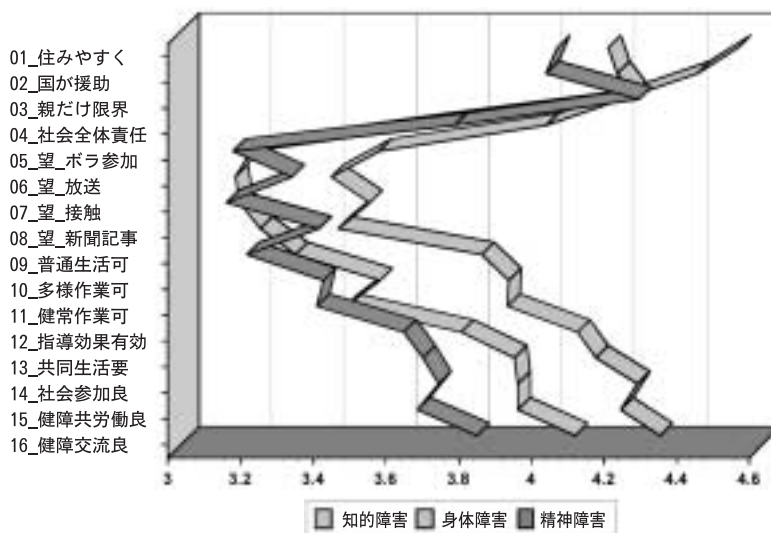


図1 障害別受容的態度の平均得点

精神障害≦知的障害≦身体障害

という傾向が明らかであった。以上の傾向を示したのが図1である。

2) 接近許容度項目について

接近許容度項目4項目について、各項目に1点～5点を与え、それらの値に基づき個別に分散分析をした(表1 接近許容度部分参照)。

「許隣人」(障害の人があなたの家の隣に引っ越して来てもかまわない), 「許友人」(障害の人と友達になってもかまわない), 「許恋人」(障害の人と恋愛感情が伴う交際をしてもかまわない), 「許結婚」(障害の人と結婚してもかまわない) という4項目であるが、

精神障害≦知的障害<身体障害

という順であった。後の項目ほど接近許容度が高いと思われたが、「許友人」のほうが、「許隣人」より得点はわずかに高く、隣人関係より友人関係が許容できるようである。友人は選択できるが、隣人は選べない(にくい)

ことがその理由である可能性がある。

「許友人」と「許隣人」は全ての障害間で有意差が見られるが、「許恋人」「許結婚」では、全体に許容しにくくなりなお、精神障害と知的障害間には有意差が見られなくなる。

3) 知識項目(知識1)について

知識項目4項目について、各項目に0点(不正解)又は1点(正解)を与え、それらの値に基づき個別に分散分析をした(表1 知識参照)。

知識項目のみ記述は直接の問いに対する答えではなく、正解率に変えてある。従って表中1.0が全員正解、0が全員不正解になるように変換されている。

障害の「出現率」(障害の出現率は人口1000人中1名以下ですか) および「遺伝性」(障害はすべて遺伝によるものだと思いますか) に関する項目の正解率には有意差が見られないが、「生可能」(この家庭からでも 障害の子どもは産まれる可能性があると思いますか), および「犯罪性」(障害の人が犯罪を犯す確率は健常者に比べて高いと思いますか) の正解率はやはり、

精神障害<知的障害≦身体障害

という、精神障害が理解されていないことがわかる。特に「犯罪性」については0.54と正解率が低い。実際にはどの障害でも犯罪発生率は低いのであるが、平成13年度版犯罪白書によれば、精神障害者の犯罪の節で交通関係業過を除く刑法犯検挙人員に占める精神障害者等の比率は0.67%である（法務省法務総合研究所，2001）。

マスコミの報道のされ方の問題等で、特に精神障害者に犯罪が多いという印象が形成されている可能性がある。出現可能性についても正解率が有意に低いことから、特殊な、例えば遺伝的素因のようなものが存在するような印象を持たれている可能性がある。

4）交流経験項目について

交流経験項目5項目について、各項目に0点（なし）又は1点（あり）を与え、それらの値に基づき個別に分散分析をした（表1交流経験部分参照）。

「経験話」（障害の人と話をしたことがある）、「経験仕事」（障害の人と一緒に

に仕事（遊び）をしたことがある）「経験食事」（障害の人と一緒に食事をしたことがある）「経験生活」（障害の人と一緒に生活をしたことがある）「経験ボラ」（の人のために活動するボランティアに参加したことがある）の項目であるが、頻度としては「経験話」>「経験仕事」>「経験食事」>「経験ボラ」>「経験生活」の順で頻度が低下する。

「経験仕事」を除くと知的障害児者と身体障害児者との経験は同程度、精神障害児者は圧倒的に低い値であった。精神障害児者と話をしたことがある人でさえ4人に1名程度ということになる（精神障害の平均値0.24）。

仕事あるいは遊びを一緒にした「経験仕事」は、すべての障害間で有意差がみられ、身体障害児者が最も健常者と共生しているといえる。

以上の接近許容度、知識項目、交流経験項目について図示した（図2）。

5）知識項目について

「知識1」に加えて、知識項目として「障害区別」と「福祉施設」を加えた。

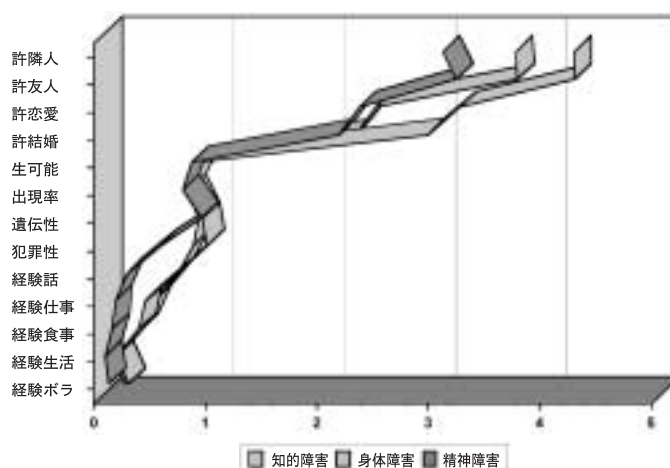


図2 障害別接近許容度、知識項目、交流経験項目平均点

「障害区別」は、難聴、精神分裂病、精神遅滞、花粉症、ちえ遅れ、うつ病、肢体不自由を、知的障害、身体障害、精神障害に分類する項目である。障害ごとに各2点とした。知的障害の得点が最も値が低い、正解項目を1つどこかに間違えて分類すれば-2になってしまうため、障害別に得点を算出する意味が薄い。そこで合計点のみを考慮すると、6点満点の5.04 (SD=0.96) 点であった。

「福祉施設」は児童相談所、福祉事務所、産院、幼稚園、保育所、児童養護施設少年院、ろう学校、ろう児施設、ろう幼児通園施設、知的障害児施設、養護学校、老人クラブ、児童自立支援センター、保健所、養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、軽費老人ホームの中から福祉施設を選ばせるもので、合計点の平均は9点満点中5.23 (SD=2.73) であった (表2参照)。

児童相談所、福祉事務所、ろう学校、養護

表2 福祉施設と回答した割合 (単位%)

養護学校	44.3
ろう学校	40.3
福祉事務所	39.2
児童相談所	37.6
有料老人ホーム	35.1
保育所	26.9
老人クラブ	22.1
保健所	13.4
少年院	9.8
幼稚園	3.3
産院	2.9
特別養護老人ホーム	77.2
児童養護施設	72.7
養護老人ホーム	72.2
知的障害児施設	71.2
ろう児施設	61.0
ろう幼児通園施設	52.2
軽費老人ホーム	47.2
児童自律支援センター	42.2

表3 学校別障害別障害受容度得点

検定結果は一元配置分散分析後のTukeyの多重比較の結果。それぞれの項目の頭1字をとり表現している

全 員	介護専学			福祉系大			非福祉大			検 査 結 果		
	知的 障害	身体 障害	精神 障害	知的 障害	身体 障害	精神 障害	知的 障害	身体 障害	精神 障害	障害間	学校間	性差
01_住みやすく	4.40	4.67	4.28	4.21	4.65	4.09	4.06	4.43	3.90	精<知<身 非<福=介	男<女	
02_国が援助	4.33	4.53	4.13	4.29	4.56	4.19	4.11	4.32	3.88	精<知<身 非<福=介	男<女	
03_親だけ限界	4.21	4.20	4.24	4.41	4.36	4.44	4.23	4.17	4.21	n.s.	非=介<福	男<女
04_社会全体責任	3.83	4.09	4.00	3.93	4.19	3.80	3.56	3.90	3.62	精=知<身 非<福=介	n.s.	
05_望_ボラ参加	3.94	4.28	3.72	3.36	3.56	3.21	2.74	3.16	2.82	精=知<身 非<福<介	男<女	
06_望_放送	3.64	3.81	3.80	3.42	3.78	3.54	2.78	3.06	2.96	知<精=身 非<福<介	男<女	
07_望_接触	3.86	4.11	3.78	3.36	3.70	3.29	2.72	3.14	2.72	精=知<身 非<福<介	男<女	
08_望_新聞記事	3.54	3.71	3.70	3.62	3.81	3.78	2.88	3.13	3.05	知<精=身 非<福=介	男<女	
09_普通生活可	3.56	3.95	3.50	3.45	3.99	3.28	3.14	3.71	2.99	精=知<身 非<福=介	男<女	
10_多様作業可	3.80	3.93	3.67	3.65	4.08	3.62	3.39	3.83	3.16	精=知<身 非<福=介	男<女	
11_健常作業可	3.58	3.93	3.67	3.63	4.06	3.51	3.33	3.83	3.17	精=知<身 非<福=介	男<女	
12_指導効果有効	4.01	4.17	3.88	3.81	4.19	3.68	3.65	4.03	3.46	精<知<身 非<福=介	男<女	
13_共同生活要	4.20	4.38	3.97	3.92	4.33	3.79	3.78	3.95	3.47	精<知<身 非<福=介	男<女	
14_社会参加良	4.26	4.39	4.02	3.96	4.41	3.77	3.76	4.14	3.54	精<知<身 非<福<介	男<女	
15_健障共労働良	4.29	4.36	3.96	3.92	4.32	3.76	3.76	4.10	3.46	精<知<身 非<福<介	男<女	
16_健障交流良	4.50	4.50	4.16	4.06	4.48	3.91	3.89	4.17	3.61	精<知<身 非<福<介	男<女	

学校等が高い値を示しているが、渡邊・宮本（2000）でもほぼ同様の傾向が見られており、福祉関係機関、学校と福祉施設との相違・区別がしっかり認識されていないことを示すと述べている。

2 結果の学校別、性別傾向について

各受容的態度16項目について、学校×障害、および性×障害の2元配置分散分析を行い、さらにTUKEYの多重比較を行った。その結果を表3に示す。数値は各項目の平均点、検定結果の項は、各要因中の水準の見出し語1語を用いて、有意差が見られた場合は不等号、見られなかった場合は等号で示した。たとえば学校間検定結果では非<福=介と表現したが、「非福祉大」（=非福祉系学部学科の大学生）より「福祉系大」（=福祉系学部学科の大学生）が有意に大きな値で、「福祉系大」と「介護専学」（=介護系専門学校生）とは有意差が見られなかったことを示す。

ただ一つの項目Q3「障害の人の面倒を見るのは、親だけでは限界があると思う」のみが「非福祉大」と「介護専学」とで有意

差がみられず、この2者と「福祉系大」間に有意差が見られたのを除けば、「非福祉大」はすべて「福祉系大」より有意に受容的態度得点が低いこと、「福祉系大」と「介護専学」は同程度あるいは有意に後者が大きいことが示された。

性差については、受容的態度得点はQ4「知的障害の人のことは、社会全体が責任を持つべきだと思う」のみが有意差なし、その他の項目はすべて男性<女性となった。

なお、以上の学校、性要因の交互作用は全く見られなかったため、

非福祉系学部の大学生<福祉系学部の大学生≤介護専門学校生

男性<女性

といてよいと思われる。

3 受容的態度の因子的妥当性について

生川（1995）の4因子、即ち理念的好意因子、実践的好意因子、能力肯定因子、地域交

流因子から4項目ずつとりだし、16項目の受容的態度を作成したが、同じ因子構造をとるかどうかを検討した。

因子抽出法に最尤法を用い、バリマックス回転後の結果を表4、5、6に示した。表4は知的障害に関する受容的態度の因子分析結果であり、生川（1995）の地域交流因子と理念的好意因子が第1因子に含まれていた。表5は身体障害に関する受容的態度の因子分析結果であり、生川（1995）の地域交流因子と理念的好意因子が第1因子に含まれていた。表6は精神障害に関する受容的態度の因子分析結果であり、生川（1995）の地域交流因子と能力肯定因子が第1因子に含まれていた。

以上から

1) いずれの障害でも固有値1.0以上の因子は3

表4 知的障害に関する受容的態度の因子分析結果

知的障害項目		第1因子	第2因子	第3因子
地域交流	知16_健障交流良	0.694	0.385	0.251
	知15_健障共労働良	0.654	0.446	0.213
	知14_社会参加良	0.653	0.517	0.181
	知13_共同生活要	0.615	0.456	0.252
理念的好意	知02_国が援助	0.597	0.251	0.222
	知01_住みやすく	0.556	0.146	0.230
	知04_社会全体責任	0.475	0.125	0.286
	知03_親だけ限界	0.379	0.065	0.103
能力肯定	知10_多様作業可	0.182	0.777	0.155
	知11_健常作業可	0.240	0.670	0.169
	知09_普通生活可	0.190	0.657	0.184
	知12_指導効果有効	0.349	0.600	0.170
実践的好意	知06_望_放送	0.229	0.155	0.808
	知07_望_接触	0.262	0.248	0.782
	知08_望_新聞記事	0.243	0.164	0.761
	知05_望_ボラ参加	0.289	0.203	0.747
固有値		7.402	1.720	1.323

表5 身体障害に関する受容的態度の因子分析結果

身体障害項目		第1因子	第2因子	第3因子
地域交流	身16_健障交流良	0.778	0.215	0.319
	身15_健障共労働良	0.746	0.184	0.407
	身14_社会参加良	0.738	0.149	0.442
	身13_共同生活要	0.684	0.238	0.390
理念的好意	身02_国が援助	0.644	0.214	0.208
	身01_住みやすく	0.635	0.161	0.207
	身04_社会全体責任	0.439	0.290	0.174
	身03_親だけ限界	0.415	0.155	0.046
実践的好意	身06_望_放送	0.190	0.889	0.141
	身07_望_接触	0.259	0.836	0.175
	身08_望_新聞記事	0.207	0.809	0.173
	身05_望_ボラ参加	0.285	0.746	0.165
能力肯定	身11_健常作業可	0.238	0.145	0.806
	身10_多様作業可	0.271	0.133	0.800
	身12_指導効果有効	0.315	0.148	0.689
	身09_普通生活可	0.290	0.264	0.654
固有値		7.770	2.019	1.472

表6 精神障害に関する受容的態度の因子分析結果

精神障害項目		第1因子	第2因子	第3因子
地域交流	精15_健障共労働良	0.825	0.206	0.303
	精14_社会参加良	0.824	0.198	0.306
	精13_共同生活要	0.804	0.205	0.286
	精16_健障交流良	0.800	0.228	0.302
能力肯定	精11_健常作業可	0.721	0.234	0.179
	精10_多様作業可	0.702	0.268	0.183
	精12_指導効果有効	0.672	0.206	0.244
	精09_普通生活可	0.659	0.292	0.154
実践的好意	精06_望_放送	0.182	0.880	0.203
	精08_望_新聞記事	0.227	0.828	0.180
	精07_望_接触	0.379	0.682	0.237
	精05_望_ボラ参加	0.396	0.622	0.262
理念的好意	精01_住みやすく	0.317	0.214	0.831
	精02_国が援助	0.356	0.180	0.765
	精04_社会全体責任	0.319	0.284	0.595
	精03_親だけ限界	0.104	0.116	0.502
固有値		8.715	1.658	1.430

- 2) 因子構造からは知的障害と身体障害は同じ、精神障害は別の構造をしていた
- 3) 生川 (1995) の各因子の4項目は今回の分析でもまったく同じくまとまって出現している
- 4) 第1因子が全て「地域交流」因子+「理念的好意」因子あるいは「能力肯定」因子という構成
- 5) 第1因子の固有値のみがきわめて大きいという結果になった。これらからは、生川 (1995) の因子の抽出はある程度適切であったが、障害全体に対する態度としては2因子、あるいは3因子と考える方が適切であると思われる。即ち、生川 (1995) の「地域交流」+「理念的好意」+「能力肯定」因子を1つにまとめた因子、「社会的関与」とでも名付けられる因子であり、残りが「実践的好意」であるが、Q5「障害の人のためのボランティア活動に参加したいと思う」、Q6「障害に関するテレビやラジオの放送を見たり聞いたりしたいと思う」、Q7「障害の人と接してみ

たいと思う」、Q8「障害に関する新聞記事などを読みたいと思う」という項目からはむしろ「個人的関与」と命名したほうがふさわしいと思われる。あるいは今仮に「社会的関与」と名付けた因子は、さらには項目をよく検討して、生川 (1995) の「能力肯定」因子をそこからとりだし3因子とすることが障害者に対する態度としてはふさわしいと思われる。

なお、本報告は2002年度北星学園大学特別研究費の補助を受けた。

【引用文献】

- 藤本忠明・小花和昭介 (1973) 「精神障害者に対する偏見の規定要因について」 追手門学院大学文学部紀要7,140-151
- 法務省法務総合研究所 (2001) 「平成13年度版犯罪白書」, 財務省印刷局
- 生川善雄 (1995) 「精神遅滞児 (者) に対する健

学生の障害児者に対する受容的態度に関する研究（第1報）

常者の態度に関する多次元的研究 - 態度と
接触経験、性、知識との関係 - 」特殊教育
学研究,32（4）,11-19

大谷博俊（2002）,「知的障害児（者）に対する健
常者の態度に関する研究 - 大学生の態度と
交流経験・接触経験との関連を中心に - 」
特殊教育学研究, 40（2）,215-222

渡邊映子・宮本文雄（2000）「福祉心理学科学生
の福祉意識に関する調査研究」東京成徳大
学研究紀要7,77-90

付録 1 質問紙 (知的障害分+知識等)

実際は別紙 (知的障害分)

知的障害について述べた下記の意見に対し、あなたがどう思うかを 1 (全く思わない) から 5 (とても思う) までの中で最も適当だと思った番号に をつけて下さい

(1) 知的障害の人のために、地域環境をもっと住みやすいものにしていくべきだと思う

1 2 3 4 5

(2) 知的障害の人が仕事につけるように国の方でもっと働きかけるべきだと思う

1 2 3 4 5

(3) 知的障害の人の面倒を見るのは、親だけでは限界があると思う

1 2 3 4 5

(4) 知的障害の人のことは、社会全体が責任を持つべきだと思う

1 2 3 4 5

(5) 知的障害の人のためのボランティア活動に参加したいと思う

1 2 3 4 5

(6) 知的障害に関するテレビやラジオの放送を見たり聞いたりしたいと思う

1 2 3 4 5

(7) 知的障害の人と接してみたいと思う

1 2 3 4 5

(8) 知的障害に関する新聞記事などを読みたいと思う

1 2 3 4 5

(9) 知的障害の人でも普通の社会生活を送ることが出来ると思う

1 2 3 4 5

(10) 知的障害の人でもいろいろな作業をやっていけると思う

1 2 3 4 5

(11) 一般の人の仕事の中には知的障害の人が入って出来る仕事がたくさんあると思う

1 2 3 4 5

(12) 知的障害の人でも、指導すれば効果が上がると思う

1 2 3 4 5

(13) 知的障害の人たちも他の人たちと一緒に生活することが必要だと思う

1 2 3 4 5

(14) 知的障害の人でもどんどん社会参加をした方がよいと思う

1 2 3 4 5

(15) 他の人たちと知的障害の人たちが一緒に働くことは良いことだと思う

1 2 3 4 5

(16) 他の人たちと知的障害の人がまじわることは大切なことだと思う

1 2 3 4 5

Ⅱ 知的障害の人とあなた自身との関係を述べた次の質問に対し、あなたがどう思っているかを1（かまう）～5（かまわない）のうち、あてはまる番号に○を付けて答えて下さい

（1）知的障害の人があなたの家の隣に引っ越して来てもかまわない

1 2 3 4 5

（2）知的障害の人と友達になってもかまわない

1 2 3 4 5

（3）知的障害の人と（恋愛感情が伴う）交際をしてもかまわない

1 2 3 4 5

（4）知的障害の人と結婚してもかまわない（あなたが未婚とした場合）

1 2 3 4 5

Ⅲ 知的障害について述べた意見に対しあなたがどう思っているかをあてはまる番号に○をつけて答えてください

（1）どこの家庭からでも知的障害の子供は産まれる可能性あると思いますか

1. 思う 2. 思わない

（2）知的障害の出現率は、人口1,000人中1人（0.1%）以下だと思いますか

1. 思う 2. 思わない

（3）知的障害はすべて遺伝によるものだと思いますか

1. 思う 2. 思わない

（4）知的障害の人が犯罪を犯す率は健常者に比べ高いと思いますか

1. 思う 2. 思わない

Ⅳ 下記の質問で、自分に当てはまれば「はい」の方に、当てはまらなければ「いいえ」の方に○をつけてください

（1）知的障害の人と話をしたことがある

はい いいえ

（2）知的障害の人と一緒に仕事（遊び）をしたことがある

はい いいえ

（3）知的障害の人と一緒に食事をしたことがある

はい いいえ

（4）知的障害の人と生活を共にしたことがある

はい いいえ

（5）知的障害の人のために活動するボランティアに参加したことがある

はい いいえ

0. a.～g.の中から次の障害に当てはまるものを選んでください（いくつでも結構です）。

知的障害 ()

身体障害 ()

精神障害 ()

a.難聴 b.精神分裂病 c.精神遅滞 d.花粉症 e.ちえ遅れ f.うつ病 g.肢体不自由

1. 次のうち、『福祉施設』はどれとどれですか。該当するものの番号を○で囲んでください。

- 1.児童相談所 2.福祉事務所 3.産院 4.幼稚園 5.保育所
6.児童養護施設 7.少年院 8.ろう学校 9.ろう児施設
10.ろう 幼児通園施設 11.知的障害児施設 12.養護学校 13.老人クラブ
14.児童自立支援センター 15.保健所 16.養護老人ホーム
17.特別養護老人ホーム 18.有料老人ホーム 19.軽費老人ホーム

2. 福祉施設のうち、数の多いものは次のどれでしょうか。多い順に下欄に番号をつけて下さい。

施 設	1.老人施設	2.児童福祉施設福祉設	3.乳 児 院	4.身体障害児・者施設	5.保護施設	6.保 育 所
順番 (数の多い順)						

3. 次の施設の名を見て、どういう感じ（印象）がするか、あなたの感じ、印象を書いてください。

回答は右欄から選んで、番号で記入してください。いくつでも結構です。

a.児童養護施設 ()

b.特別養護老人ホーム ()

c.乳児院 ()

d.知的障害者授産施設 ()

e.軽費老人ホーム ()

f.少年院 ()

g.知的障害児施設 ()

h.自閉症児施設 ()

i.身体障害者更生施設 ()

j.精神障害者厚生施設 ()

k.グループホーム ()

l.知的障害者更生施設 ()

1.悲しい, 悲惨

2.楽しい

3.暗い

4.明るい

5.不幸

6.幸せ

7.のんびり

8.忙しい

9.きれい

10.きたない

11.怖い

12.賑やか, 騒々しい

13.静か

14.その他 (具体的に)

付録2 性別受容的態度

表3の男女別データ。上表男性データ，下表女性データ

男性のみ	介護専学			福祉系大			非福祉大		
	知的障害	身体障害	精神障害	知的障害	身体障害	精神障害	知的障害	身体障害	精神障害
01_住みやすく	4.27	4.55	4.19	4.03	4.29	3.85	4.01	4.31	3.82
02_国が援助	4.20	4.42	4.00	4.06	4.29	3.91	3.97	4.20	3.84
03_親だけ限界	4.10	4.10	4.14	4.21	4.03	4.18	4.32	4.05	4.19
04_社会全体責任	3.75	3.97	3.92	3.82	3.97	3.61	3.62	3.92	3.65
05_望_ボラ参加	3.88	4.17	3.51	3.09	3.26	2.91	2.64	3.05	2.79
06_望_放送	3.53	3.58	3.59	3.03	3.29	3.06	2.61	2.88	2.79
07_望_接触	3.71	3.95	3.66	3.00	3.47	3.06	2.59	2.95	2.65
08_望_新聞記事	3.36	3.43	3.45	3.15	3.38	3.36	2.73	2.98	2.82
09_普通生活可	3.39	3.65	3.28	3.12	3.76	3.15	3.07	3.64	2.95
10_多様作業可	3.53	3.63	3.46	3.35	3.88	3.18	3.31	3.71	3.17
11_健常作業可	3.42	3.72	3.51	3.50	3.85	3.15	3.38	3.74	3.20
12_指導効果有効	3.90	4.10	3.75	3.76	4.12	3.52	3.60	3.95	3.47
13_共同生活要	4.12	4.35	3.76	3.71	4.15	3.55	3.68	3.78	3.38
14_社会参加良	4.22	4.33	3.80	3.74	4.15	3.52	3.77	4.09	3.51
15_健障共労働良	4.19	4.18	3.72	3.74	4.06	3.58	3.63	3.95	3.40
16_健障交流良	4.44	4.33	4.00	3.85	4.26	3.76	3.84	4.02	3.58

女性のみ	介護専学			福祉系大			非福祉大		
	知的障害	身体障害	精神障害	知的障害	身体障害	精神障害	知的障害	身体障害	精神障害
01_住みやすく	4.50	4.78	4.36	4.30	4.81	4.20	4.13	4.58	3.99
02_国が援助	4.43	4.62	4.24	4.39	4.68	4.31	4.28	4.48	3.93
03_親だけ限界	4.30	4.29	4.33	4.50	4.51	4.55	4.13	4.32	4.23
04_社会全体責任	3.90	4.19	4.07	3.97	4.28	3.89	3.49	3.88	3.58
05_望_ボラ参加	3.99	4.38	3.90	3.49	3.70	3.34	2.85	3.29	2.87
06_望_放送	3.74	4.00	3.97	3.59	4.00	3.76	2.99	3.28	3.17
07_望_接触	3.99	4.25	3.87	3.53	3.81	3.39	2.86	3.36	2.80
08_望_新聞記事	3.70	3.94	3.91	3.84	4.01	3.96	3.06	3.32	3.34
09_普通生活可	3.70	4.20	3.68	3.61	4.09	3.34	3.22	3.80	3.04
10_多様作業可	4.03	4.19	3.86	3.78	4.18	3.81	3.49	3.97	3.15
11_健常作業可	3.71	4.12	3.81	3.69	4.15	3.68	3.27	3.94	3.13
12_指導効果有効	4.10	4.24	3.99	3.82	4.23	3.76	3.71	4.12	3.46
13_共同生活要	4.28	4.41	4.14	4.01	4.42	3.89	3.90	4.16	3.58
14_社会参加良	4.29	4.43	4.21	4.07	4.53	3.88	3.74	4.20	3.57
15_健障共労働良	4.37	4.51	4.16	4.00	4.45	3.84	3.92	4.29	3.52
16_健障交流良	4.54	4.65	4.30	4.16	4.58	3.97	3.96	4.35	3.64

